

## 第三者意見



東北大学大学院環境科学研究科  
環境・エネルギー経済分野 准教授

馬奈木俊介 氏

NIPPOを身近に感じることができるレポートだという印象を持ちました。社会とNIPPOのつながりは「事業」のページにおいて、いかにNIPPOが都市のインフラ形成に関わっているかを、社会全体のイラストの中で示すことにより分かりやすく表されています。

レポートでは、NIPPOにとって重要な安全の確保、事業活動や商品における環境負荷低減、事故に対する対策など基本的な情報を丁寧に報告しており、全体を通して、非常に分かりやすい内容となっています。また、顔の見えるレポートということで、現場と読者の声を反映しているので杓子定規で個性がないものとならず、興味深い内容です。

建設業界全体を見てみると、しばしば建設投資の過大さが日本で批判されます。しかし現在の日本の建設投資額は、日本のGDPの約8%です。ちなみに欧米での平均は8-10%です。日本が地震・災害大国であり、免震技術を用いた建物の建設が必要であることを考慮すると、日本の建設投資率は高くありません。NIPPOのレポートでは、今後どの程度のインフラ整備を行うことで日本の社会が豊かになるかをNIPPOが考える数値で示していくことが必要だと思います。そしてその中でのNIPPOの役割を書いていただきたいと思います。

そしてもう一つ印象に残るのが、水島社長のトップコミットメントで示されている海外への事業展開です。上記の投資面での厳しい国内の現状が変わらないとすると、建

設業界の市場規模拡大のためには海外事業が重要となってきます。

今後は、海外においても工事施工時の騒音・環境対策などNIPPOの優れた技術で、いかに貢献できるか、現地の法規制の問題を考慮したうえでその方向性を描いていただきたいです。難しい要求ではありますが、今年度の分かりやすさを保ちつつ示していただきたいと思います。

また、日本は、温室効果ガス排出削減目標について、25%削減を目指す方針を明らかにしています。国内外での環境政策の進展が見られれば、来年以降、建設業界全体としての環境投資などさらに取り組みも進んでいくと思います。つまり、ビジネスチャンスを生むということになります。

NIPPOにとって、私企業としていかに利益を上げ、環境保全活動の継続的改善に努めるかは重要な課題です。期待できる事例として、レポートで紹介されている低炭素アスファルト舗装技術としての中温化技術の実用化があります。来年度のレポートでは、例えば加熱アスファルト混合物製造時にCO<sub>2</sub>を削減することが環境にいいというだけでなく、その経済効果も示し、その青写真を2020年、2050年とグローバルな気候変動の政策目標年度との関係で希望するストーリーを書いていただきたいと思っています。そうすることで、環境政策の推進に伴うNIPPOの発展を、読者はレポートを通して予想することができるようになります。

### ご意見をいただいて



CSRレポート編集責任者  
環境安全・品質保証部長

吉塚 龍吉

馬奈木先生には、過大な評価と貴重なご意見をお寄せいただきまして厚くお礼申し上げます。

当社は、企業理念である「確かなものづくり」の実現

を目指してCSR活動に取り組んでいます。本レポートでは、当社の幅広い事業活動と社会インフラ形成とのかかわりを一般の方々にも分かりやすいように「事業」紹介をイラストで示してみました。

今後は、ご指摘を受けた当社の環境技術の普及・開発に努め、地球環境の保全に少しでも貢献できるように取り組むとともに、皆様のご意見を踏まえてCSR活動をより一層充実したものにしたいと考えております。